

たかしま市民協働 交流センターだより

22号
2014年1月発行



特集 一人で始めた活動から市民活動へ ～組織づくりをしよう～

平成25年度 協働提案事業
みんなでやろう！地域の防災力向上事業

高島市災害ボランティア活動連絡協議会

連絡先 TEL：0740-36-8220 FAX：0740-36-8221
事務局：高島市社会福祉協議会（高島市勝野215 高島市役所高島支所2階）

INDEX

- 特集 一人で始めた活動から市民活動へ
～組織づくりをしよう～
- たかしまの元気！企業 ～有限会社とも栄菓舗～
地域も人も、ともに栄える店づくりをめざして
- 映画「じんじん」の上映実行委員会メンバー募集中！
～絵本は過去と現在と未来を結ぶ世界～
- いろいろやっています！(in)たかしま
市内でがんばっているNPOや市民活動団体を紹介
- インフォメーション

災害が起こった時は、地域住民がお互いに助け合うことが命を救うことにつながります。協議会では、自助、共助の意識を高め、地域の防災力を強める活動に取り組まれています。会員は、高島市青年協議会や郵便局長会、市民活動団体など地域防災に関わる主な団体だけでなく、関心のある市民、障がい者など約50人が、年間を通じて防災に関する学習会や災害時対応訓練などを行っています。協働提案事業では防災こんだん会を18の地区で行い、また防災学習会や避難所運営訓練、防災ベンチづくりなどを自治会とともに「やってみませんか？プログラム」を新興住宅地、地域に1級河川を持つ集落、高齢化が進む集落など特徴的な3地区で現在実施しています。参加者に、「災害時には日頃の人のつながりこそが大切」と実感してもらい、地域の防災を地域の人考える意識を広めています。自治会などの防災訓練にぜひお声かけください。

INFORMATION

市民による、市民のためのまちづくり

たかしま・未来・円卓会議

参加者募集中！

市民一人ひとりが高島の未来について考え、一人ひとりができることを話し合う場「たかしま・未来・円卓会議」を開催しております。みなさまのご参加お待ちしております。

第8回 たかしま・未来・円卓会議 -一人ひとりが住居のまちづくり編 その1

日時	1月26日(日) 13:30～16:30
場所	今津東コミュニティセンター ホール
参加費	無料
内容	障がいのある人の社会参加と過疎地域の買い物支援を行う「ぎょうれつ本舗」の取り組みを聞きます。誰もが主役として地域に関わるまちづくりについて、参加者同士で話し合います。

第9回 たかしま・未来・円卓会議 -一人ひとりが住居のまちづくり編 その2

日時	3月1日(土) 8:30～17:00
場所	今津東コミュニティセンター集合 8:30
参加費	1,250円(資料代+昼食代)
定員	40名(先着順)
内容	知的障がい者の就労支援施設、介護を必要とする方と家族の応援施設、食と資源の地産地消を進めるレストラン、エネルギーの自給など、他分野の活動が連携して持続可能なまちづくりを実現している「あいとうふくしモール」でお話を聞き、高島での可能性について考え、話し合いたいと思います。

第10回 たかしま・未来・円卓会議 総集編

日時	3月23日(日) 13:30～16:30
場所	今津東コミュニティセンター ホール
参加費	無料
内容	第1回～第9回の会議を振り返り、参加者から出された高島の未来の姿、未来につながるキーワードなどを共有していきます。高島の未来に向けて、一人ひとりは何ができるのか、そして分野を越えて出会い、つながることから何が生まれるのか、自由な意見交換の場とします。

※終了後交流会を予定しています。

お申込み・お問い合わせ先
たかしま市民協働交流センター

編集後記

新年あけましておめでとうございます！
本年もどうぞよろしくお願い致します。
本紙では、毎回、高島市内の素敵な方々取材させていただき、「高島市って元気ですごい人がいっぱいいる！」と感じています。ただ、残念なことにその素敵な方々の活動が、一部の人にしか知られていないとも感じているので、今年もこのセンター便りを通じて、より多くの市民の皆さまに、市内の素敵な方々をご紹介できればと思っています。

「たかしま市民協働交流センターだより」の タイトルを募集します！

高島市内の市民活動に役立つ情報や地域づくりに取り組む市民、企業などを紹介し、市民、行政、企業などさまざまな主体が情報誌をとおして出会い、協働を進める目的で作成しています。
この情報誌の分かりやすく、親しみやすいタイトルを募集します。みなさんのアイデアをお待ちしております！

ご応募いただいた
タイトルがここに
入ります！



募集期間	2014年1月～2月末
決定	2014年3月
選考	たかしま市民協働交流センター協議会にて選考いたします。決定したタイトルは平成26年7月発行号から使用します。
応募方法	お一人1点、タイトルの説明をつけて、たかしま市民協働交流センターまで、ファックス、E-mailにて、お名前、ご住所、ご連絡先、年齢、所属団体(あれば)を記載してご応募ください

◆ご応募・お問い合わせ先
たかしま市民協働交流センター

防災フォーラム

高島市災害ボランティア活動連絡協議会では災害に対する日頃の心構えや、災害や防災に対して市民の皆さんと災害に強いまちづくりを進めていく為に高島市と協働し『みんなでやろう！地域防災力向上事業』を今年度実施してきました。今回1年間のまとめの場として各区で取り組まれてきた防災取組事例を紹介する場、また、課題等の共有・分析の機会として開催いたします。

日時	2月9日(土)13:30～ (受付 13:00～)
会場	安曇川公民館(ふじのきホール)
内容	基調講演・事例紹介

申込・問い合わせ先
高島市災害ボランティア活動連絡協議会
事務局 社会福祉法人高島市社会福祉協議会
〒520-1121 高島市勝野215
TEL 0740-36-8220
FAX 0740-36-8221

◆このページに関するご応募・お問合せ
たかしま市民協働交流センターまで、お気軽にお問合せください。

発行/たかしま市民協働交流センター
〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1
(今津東コミュニティセンター内)
TEL/ 0740-20-5758 FAX/ 0740-20-5757
MAIL/ webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
http://tkkc.takashima-shiga.jp/ facebook
http://tkkc.shiga-saku.net/ twitter
業務時間/ 祝日を除く月～金曜日 9時～17時

特集

一人で始めた活動から市民活動へ

〜組織づくりをしよう〜

地域にある社会的課題に対して、一人で学びや活動を始め、歩み続ける中で、活動に共感する仲間ができてきたとき、仲間とともに組織的で継続的な活動にしていくために「組織づくり」が必要となります。仲間とともに組織づくりを進めてみませんか。

ボランティア活動と市民活動

「この町を花がいつも咲いている、心安らぐ町にしたい」「学校へ行けない子どもたちの居場所を作り、子どもの可能性を広げたい」「身近な山の環境を守り、土砂災害を減らしたい」「高齢の方の買い物や通院をお手伝いし、高齢者が安心して住める町にしたい」など、高島市内でも、さまざまなボランティア活動や市民活動が各地で取り組まれています。

個人から始めたボランティア活動が、やがて社会的な課題解決を意識し、活動の範囲を広げ、営利を求めない継続的な活動になることを目指していくと、市民活動として地域社会を継続的に支える活動になっていきます。

ボランティア活動は、
「個人の活動で、また単発的に行うことのある活動」

と言えます。



市民活動は、
「社会的な課題の解決に向けて、組織的・継続的に取り組む活動」

と言えます。



共通していることは、
「私がやろう」「私たちがやろう」という自発性

から始まる活動です。



組織づくりのためには、

「目的」と「目標」が不可欠

一人の活動から仲間と活動するようになったのはなぜでしょうか？

社会的な課題解決を目指すためには、社会の意識や仕組みを変える必要があります。それには長期的、継続的な取り組みが必要であり、自分一人だけではできない仲間との活動が必要になったのではないのでしょうか。

多くの仲間とともに活動するためには、活動の「目的」「なんのために存在しているのか?」、と「目標」「何を達成したいのか?」を分かりやすく表現し、仲間と共有していくことが必要です。「目的」や「目標」を仲間と何度も話し合っ

て作ることが大切です。例えば、「誰もが心安らぐ町を作る」を目的とし、「いつも花が咲いている町」を目標に花作り活動をしていく場合、一人でできる範囲は限られています。仲間とともに花作りをし、さらに仲間と子どもたちや近所の人に花作りの楽しさや活動の目的を伝えることができればどうでしょうか。子どもたちや近所の方が花を育て、多くの人が育てた花が咲いている町の方が多くの人の心の安らぎにつながるかもしれません。

多くの人に関わりを広げるためには、仲間とともに同じ「目的」を持ち、共通の「目標」に向かって活動する組織づくりが大切になるのです。

分業が大切です

一人でしていた活動を仲間と分担していくことで、仲間一人ひとりの力がより組織に活かされることとなります。活動を続けるための作業を書き出してみましよう。

会計や広報、企画など誰がどの作業を担当するか、得意なことや関心のあることなどをそれぞれに話し合い、決めていきます。少人数でも分担を組織図にして、組織の中における一人ひとりの役割を確認します。

仲間で「規約」

づくりをしよう

活動に広く参加を募り、会員制度などを作った団体として運営していくために大切なのは「規約」です。

運営上の根本的な規則を書いたもので、「団体の憲法」といえることができます。NPO法人では「定款」がこれにあたります。

「規約」によって、団体がどのような目的や目標を持ち、どのような活動をしているのかを明らかにすることで、組織を運営する仲間も団体に参加する人も協力しやすくなり、社会的にも団体を理解してもらいやすくなります。

「規約」に書くことは、

- ・ **団体の名称**
団体の名称は必ず記載します。
- ・ **目的**
何を達成するための組織なのかを分かりやすく記載することで、団体の存在意義を示す重要な部分です。
規約の冒頭などで「設立趣旨」として、問題意識や想いを記載すると、団体の思いがより伝わりやすくなります。
- ・ **所在地**
拠点となる事務所の住所を記載します。
- ・ **活動の内容**
目的を達成するために、どのような活動をするのか活動（事業）を具体的に書きます。
- ・ **会員の種類や会費と入会や退会について**
団体の趣旨に賛同し、ともに活動をした
- ・ **役員について**
役員を選ぶ方法や、役員の種別、職務、任期を明記して、役割分担と責任を明確にします。

・ 会議の種類と会議で決めること

会議は団体の意思決定を行なう場です。会議の種類（総会や役員会など）・定員数・会議で何を決めるのか、総会や役員会などそれぞれにどんな事項について決める権限があるのかを明確にします。

・ 資金に関すること

会費、寄付金、その他の収入などの取り扱いについて（会費、寄付金、その他の収入などの取り扱いについて）などです。

この「規約」づくりをおして、活動の進め方や運営の仕方を仲間で見直し、共有していくことができます。「規約」づくりは、より多くの仲間とともに、話し合いながら作ることが大切です。

組織で活動を継続するためには、何事も話し合いを重ね、思いと情報を共有していくことが大切です。時間も手間もかかりますが、一人ひとりの力が組み合って組織の力になり、継続的な活動へとつながっていきます。



たかしま市民協働交流センターでは、組織づくり、団体の立ち上げ、NPO法人設立についてご相談に対応しております。

映画 「じんじん」の上映実行委員会 メンバー募集中!

人と人の心をつなぐ力を持つ「絵本」を中心に、20年以上前から絵本の里づくりが受け継がれている北海道剣淵町は、人口3,500人余りの農業のまちです。

映画「じんじん」は、この小さなまちで、絵本が暖かい人のつながりを作り、子どもたちが絵本に耳を傾け、目を輝かせる姿に出会った、俳優 大地康雄さんの思いから生まれました。

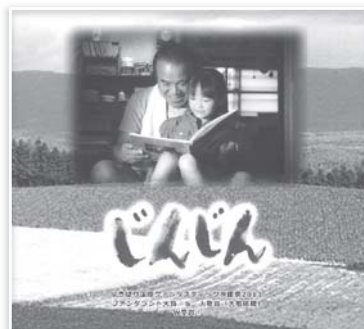
「絵本には人への思いやり、豊かな感性、言語力や想像力といった人が生きていく上で最も大切な根本の力を育むすばらしい力があることを教えられ、感動しました。そして、絵本は親と子の絆をも深め、大人になってもお互いに一生の財産として残ります。」という大地さんの感動は、絵本が紡ぐ暖かな人の交わりと絵本の力で親と子が絆を取り戻す、映画「じんじん」に実を結びました。

映画「じんじん」を一人でも多くの方とともに観て、私たちは子どもたちに何を残すのか、ともに語り、ともに考えていきたいとの思いから実行委員会を立ち上げ感動の輪を広げていきたいと思います。

映画「じんじん」の試写会を開きます。
ぜひご覧ください、一緒に映画「じんじん」の輪を広げていきましょう。

試写会 2014年1月11日(土) 13:00~15:30

会場 新旭公民館 大ホール
※試写会終了後、実行委員会を開催します。ご参加ください。



この映画は総務省が後援しています。(総務省地域力創造グループ地域政策課) 総務省はこの映画を「スローシネマ方式」で上映するとしています。

「スローシネマ方式」とは、地域で実行委員会を作り、時間をかけながら一步一步上映の輪を拡げ、地域のホールや公共施設を活用し、映画を通して多くの人たちに地域の絆の大切さなどを伝えようという取り組みです。

Story

立石銀三郎(56)は伝統芸能を伝える大道芸人。よくなついた一人娘は、銀三郎が毎晩のように語り聞かせるお話が大好きだった。

しかし妻と別れてからは合うことが許されず、娘との思い出は彼女が6歳のまま止まっている。ある日、銀三郎の幼なじみが営む農場に農業研修で女子高生4人がやって来た。

そこに里帰りをした銀三郎。出会いは最悪だったが、大自然に抱かれ、土に触れ、剣淵町の優しい人々とふれあううちに次第に距離は縮まっていった。

しかし、ただ一人、日下彩香だけは心を開かない。いぶかる銀三郎は、ある夜、彩香の秘密を知ることになるのだった…。

本上映 2014年4月予定しています。
高島市市民会館(託児あり)
入場料 前売り(一般・シニア) 1,000円
当日(一般・シニア) 1,500円
(小・中・高) 800円

映画「じんじん」上映高島実行委員会
お問い合わせは、たかしま市民協働交流センターへ

地域を支える協働のパートナー、高島の地域を盛り上げる企業をご紹介します。

たかしまの元気! 企業



地域も人も、ともに栄える店づくりを目指して

— 有限会社とも栄菓舗 — 代表取締役 西沢 勝治さん

安曇川の特産品「アドベリー」を使った洋菓子や高島の地名をつけた和菓子などを作り、地域に根付いた経営をされる一方、職人として技を磨き、第25回全国菓子大博覧会などで最優秀賞の受賞経験もある和菓子一級技能士「おうみの名工」※西沢勝治さんに菓子作りと地域への思いをお聞きしました。

※「おうみの名工」とは、滋賀県が現役優秀な技能者を「おうみの名工」として表彰しています。

■ 地域にとって必要とされる店づくりを目指して。

◆ 地域応援や地域貢献を意識した経営をしておられるようですが?

祖父が始めた「とも栄」は、時代や地域のニーズに合わせて、味も売り方も変化してきました。

30歳の頃、郊外の菓子店が集客する時代になってきたのを感じ、全国の優良な菓子店を見学して廻りました。そこで言われた「お客様に喜んでもらい、地域の中で良い仕事をしていけば、地域にとって必要とされる店になります。」の言葉に勇気をもらい、専門店への道を決めました。

地域密着型の店を目指して、農業者と交流し、ともに良い材料を作り、菓子作りをとおして地産地消を進めたいと考えています。今は、安曇川特産品のアドベリー、泰山寺のサツマイモ、地元の卵やお米などを使っています。菓子の名前でも地域の伝統や歴史を感じていただけるようにしています。

また、高島で本物の和菓子を紹介し、和菓子の新しい技術や感動を地域の方々に伝えたいと思っています。小学校での和菓子体験も、本物に触れる感動、和菓子の美しさや丁寧な羊羹など地域の伝統との出会い、物作りの面白さを子どもたちに感じてほしいとの思いで取り組んでいます。子どもたちは、初めて見る季節の花を模した和菓子に目を輝かせてくれていました。できる範囲ですが、多くの子どもたちに伝える機会を持ちたいと思っています。

■ 高島の歴史、文化をお菓子にのせて発信

◆ 海外の日本食紹介などにも参加されているそうですね?

2010年は滋賀県の姉妹州アメリカミシガン州での交流や2013年はシカゴで行われた日本食と酒のイベントで和菓子を紹介しました。実演では、繊細で自然と四季を感じさせる和菓子に感動していただきました。日本の伝統文化である和菓子を広く発信し、文化の交流、相互の理解になればと思っています。お菓子とともに高島の歴史や文化を海外に発信できることに喜びを感じています。

生活に彩りを添え、地域の方に感動していただける菓子づくり、地域とともに栄える店を目指して、店で働く一人ひとりと目標を共有して、店づくりをしていきたいですね。まだまだ未熟ですが、社内一丸となって、地元の方々の役にたてる店になりたいと思います。

店名「とも栄」に、「ともに栄える」との思いを込めて、日々和菓子職人としての腕を磨くご主人と静かな口調で熱く夢を語る専務取締役である奥様のお二人が進める店づくり、人づくりが海外への発信にもつながり、やがて地域の誇りになり、地域の元気につながるのだと感じました。

西近江湖風菓



とも栄菓舗

〒520-1212 滋賀県高島市安曇川町西万木211-1
TEL:0740-32-0842 FAX:0740-32-0873
メールアドレス: info@sweet-tomoe.com
ホームページ: http://www.sweet-tomoe.com/

いろいろやってます！ in たかしま

ここでは、市内のNPO、特徴的な活動のまちづくり団体や自治会が、どのようなきっかけで地域の課題に気づき活動を始めたのか、また活動の輪を広げていったのか、など、活動を展開する上での喜びや課題、これからのビジョンなどを取材して紹介します。

「スポーツをめちやめちや楽しむ。」が合言葉

認定NPO法人 TSSC



平成25年10月15日付で、総合型地域スポーツクラブとしては全国でも珍しい認定NPO法人格(※)を取得したTSSCのクラブマネージャーとして、びわこ成蹊スポーツ大学卒業後、主にサッカー等の指導やクラブ運営に携わってきた荒木陽平さんとTSSCを設立された理事長の北川伊久男さんにお話を伺いました。

TSSCは、平成18年にスポーツ好きの仲間によって任意団体「TAKASHIMA SPORTS CLUB」を設立し、「いつでも、どこでも」楽しめるスポーツクラブとして、精力的に活動されています。小・中学生を対象にアスリート育成を目的としたスポーツ塾(野球では硬式ボールを使うなど)のほか、基礎的な運動神経の発達を目的とした「たいいくの学校」など、幅広いプログラムを行っておられます。専門的な指導が口コミで広がり、設立以来、毎月の入会者が途切れていないそうです。

文化として、スポーツを生活の中に

根付かせる

ドイツをはじめとしたヨーロッパ諸国では放課後のクラブ活動は、民間運営のスポーツクラブで行うことが当たり前だそうです。

TSSCでは、現在約400名いる利用会員や賛助会員を、今後1000名に増やすことで、競技スポーツとして会員の中からプロを輩出すること、生涯スポーツとして0歳から100歳までがスポーツに携わり、生活の中にスポーツを根付かせること、若者がスポーツを職業に選べる環境を作ることなど、スポーツを通じた地域の活性化を目標とされています。



少子化が進む中での戦略は？という質問に、高齢者や中高年向けのプログラムの充実など、生涯スポーツの可能性を語る荒木さんの「課題をチャンス」と捉える発想力に組織の未来と希望を感じることが出来ました。

※認定NPO法人とは・・・
NPO法人のうちその運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものにつき一定の基準に適合し、所轄庁の認定を受けたNPO法人のこと。

認定NPO法人 TSSC

(高島市今津町名小路一丁目6-5)

- 会員数 / 268名(2013年10月現在)
- NPO法人格取得 / 平成20年(2008年)
- 理事長 / 北川 伊久男

● 連絡先
電話 (事務所) 0740-22-9090
FAX 0740-33-7100

障がい者同士の情報を共有し、一緒に活動する仲間を増やしたい

高島市視覚障害者福祉協会



高島市視覚障害者福祉協会(以下、「協会」)は平成10年に設立し、今年で10周年を迎えました。当時、高島市には視覚障がい者団体がなかったことから、初代会長が市内の視覚障がい者に呼びかけて協会を設立。会員の自立支援や社会的サービスの上で尽力されてきました。その意志を受け継ぎ、平成22年から協会の会長になった松宮喜子さんにお話を伺いました。

協会では、市内の障がい者支援団体などの協力を得ながら、歩行訓練や日帰り・宿泊研修のほか、音楽鑑賞やマナー教室、他団体との交流、障がい者理解の啓発など、様々な活動を行っています。特に宿泊体験は、日頃協会を支えてくださる準会員さんなどと交流し、日常の中の工夫などお互いに情報交換できる重要な活動だそうです。

また小学校の子どもたちに「視覚障がいのある方も無い方もみんないっしょ」ということを伝えるために、点字体験やアイマスクをしての食事を通じて、視覚障がい者の感覚、食べ物の捉え方などを体験してもらっています。

障がい者もどん外へ出よう！

市内には150名以上の視覚障がい者がおられるそうです。出来るだけたくさん仲間に出会いたい。視覚障がい者にとって便利な生活用品もたくさんあるし、知らない損！そんな情報を共有したい。との想いで、一緒に活動する仲間を広く募っています。

松宮さんの好きな言葉は「Life is motion. (生きていることは動いていること)」。体が動けば心も動く、心が動けば体も動く。もっともっと高島が障がい者にとって住やすい町になって欲しいし、障がい者もどん外へ出ようと呼びかけています。



高島市視覚障害者福祉協会

(高島市安曇川町青柳2336-1100)

- 会員数 / 35名(正会員18名、準会員17名)
- 設立 / 平成16年(2004年)
- 会長 / 松宮 喜子

● 連絡先
電話 0740-32-3551

「山しかない」から、あるもの探し

国境炭焼きオヤジの会



福井県との県境にある野口区は、昭和30年代まで集落の8割以上が炭焼きで生計を立てていたそうです。それから約半世紀、すっかりすたれてしまった炭焼きを、もう一度、復活させることにしました。

お話を伺ったのは、当時区長を務めていた会長の古本勇義さん。集落の活性化対策として何が出来るのか考えていたとき、昔、父が行った炭焼きの記憶が蘇りました。「ここには山しかない。炭焼きをやるしかない」と、集落の仲間が声をかけ、昔の炭窯を掘り起こして再現。平成22年10月、数十年ぶりに炭焼きを復活させることに成功し、地域ブランド商品「夢炭(むーたん)」を製造販売する会を設立しました。新聞やテレビの取材が入り、問合せが殺到。立ち上げ当初は、会員のほとんどが野口区のオヤジたちでしたが、現在は市外の人や女性会員も増え、70名くらいの会員がいます。

炭焼きの復活が、

集落の元気につながる

1回の炭焼きに10日かかる作業を、今は年に6回行っています。木の運搬なども大変な作業ですが、市外から手伝いに来てくれる方も増え、小学生の炭焼き体験の受け入れなども行っています。平成23年には、道の駅追分峠を運営する団体から「道の駅で交流の場をつくって欲しい」という依頼があり、春と秋の週末に、地域のおばあちゃんが売り子になって販売。お客さんとの交流で「元気がもたらえる」と、売り子希望者は後を絶たないそうです。事業収益は微々たるものですが、炭焼きを復活して良かったことは、何よりもお年寄りたちが笑顔になったこと。「地域の人を中心になって続けていければ」と語る古本さんの想いが、次につながればと思います。



国境炭焼きオヤジの会

(高島市マキノ町野口57-1)

- 会員数 / 約70名(2013年8月現在)
- 設立 / 平成22年(2010年)
- 会長 / 古本 勇義

● 連絡先
電話 0740-28-0365